

## 負荷試験費用（基本料金）

30%負荷、100%負荷でも基本料金は同じになります。  
その為、100%負荷試験をおすすめします。

(消費税別)

発電機容量	模擬負荷試験 + 発電機のメンテ
50kVA以下	98,000円～
100kVA以下	148,000円～
250kVA以下	298,000円～
500kVA以下	398,000円～
500kVA以上・高圧	別途御見積

※400V・200V系の価格となっております。

※上記の価格は、概算となっており、現地調査後、別途お見積もりさせていただきます。



自家用発電機の保守管理会社  
**相互電池産業株式会社**

本社 〒457-0835 名古屋市南区西又兵衛町3丁目3番地

◎お電話でも、お気軽にご相談ください。

**052-614-7551 (代)**

FAX **052-614-7555**

浜松事務所 〒435-0041 静岡県浜松市東区北島町290-2 マリーンII101  
TEL: 053-424-7552 FAX: 053-424-7553

ホームページ

<http://www.sougo-ds.co.jp>

### ■取得資格

- 自家発電設備専門技術者
- 消防設備士（甲・乙）
- 一種消防設備点検資格者
- 二種消防設備点検資格者
- 蓄電池設備整備資格者
- 第一種電気工事士
- 第二種電気工事士
- 一級電気工事施工管理技士
- 特殊電気工事資格者
- 監理技術者

### ■建設業許可

- (般) 消防施設工事業
- (般) 電気工事業
- (般) 機械器具設置工事業

### ■所属団体

- 愛知県消防設備安全協会
- 日本電気協会
- 日本電気技術者協会
- 中部電気管理技術者協会

**コンプライアンス**

# 非常用発電機の 模擬負荷試験 実施していますか？

年1回の負荷試験実施は、消防法によって定められております。  
負荷試験の未実施の場合、罰則が科せられます。

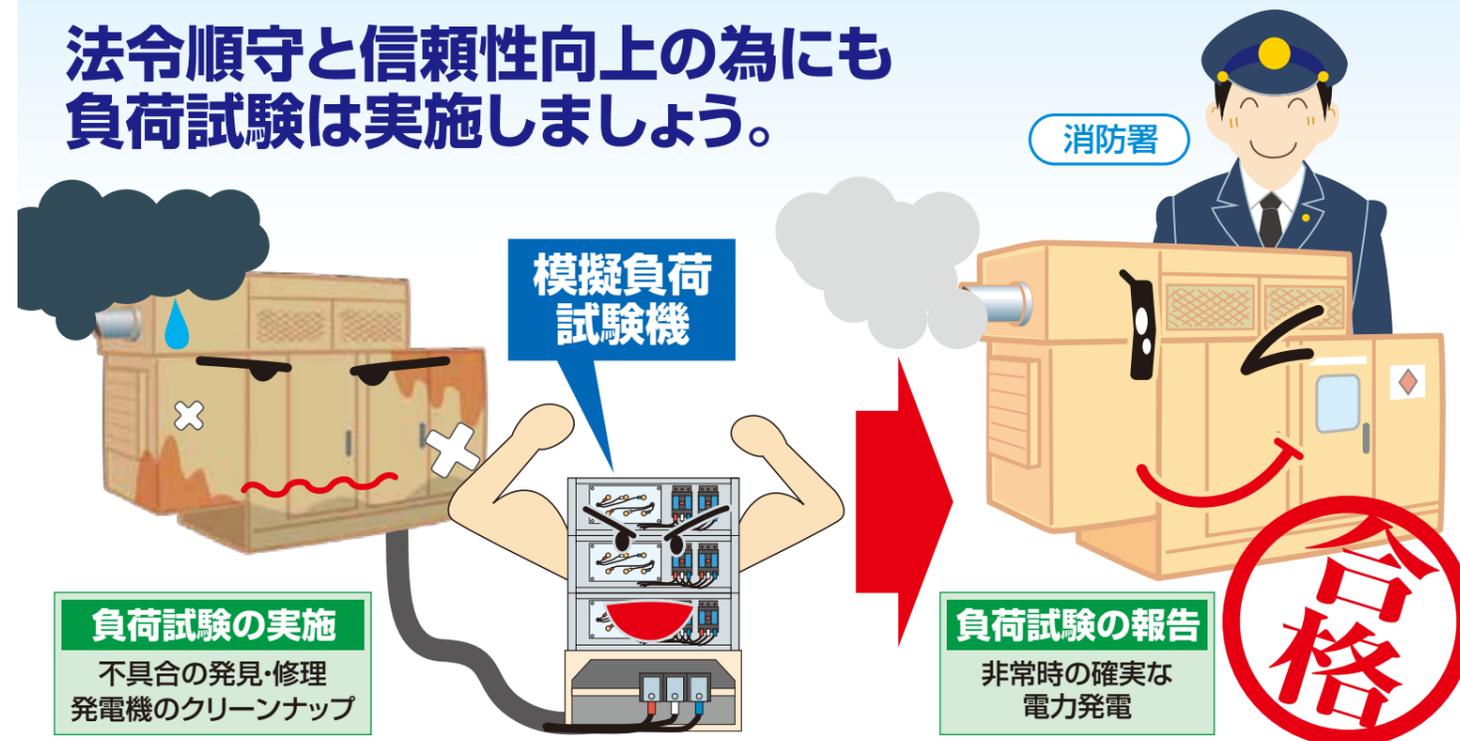
**罰金及び刑事責任**

最大1億円の罰金

**違反建物として公表**

消防庁HP・消防署などで公表

法令順守と信頼性向上の為に  
負荷試験は実施しましょう。



弊社では、「模擬負荷試験」+「発電機のメンテナンス」で  
トータルに御社設備をサポートします！



自家用発電機の保守管理会社  
**相互電池産業株式会社**

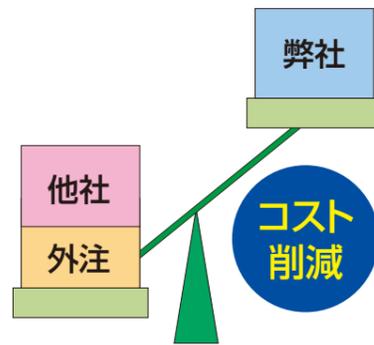
# 相互電池産業では「模擬負荷試験」+「発電機のメンテナンス」で、御社設備をトータルにサポート。 外注化は行わず、弊社内で一貫したサービスをご提供できるため、 最大限のコスト削減で、御社に貢献致します。



相互電池産業では、法令に基づいた負荷試験を実施可能です。それに加え、外注化を行わず、弊社内で非常用発電機のメンテナンスも行えます。

これら、非常用発電機への一貫したサポート体制は、外注化を行っている他社に比べ、トータルでコスト面や設備の詳細な箇所の安全性にも有利です。

長年培ってきた経験や技術で、御社設備の安全性などの付加価値向上や設備に対するコスト削減に貢献できると自負しております。



## 施工事例

<b>A工場</b> 愛知県半田市 模擬負荷試験 	<b>B病院</b> 愛知県豊田市 模擬負荷試験(計測中) 	<b>Cビル</b> 愛知県名古屋市 エンジンバルブ クリアランス 	<b>Dショッピングセンター</b> 愛知県岡崎市 エンジンオイル注入中 
---------------------------------	--------------------------------------	--	---

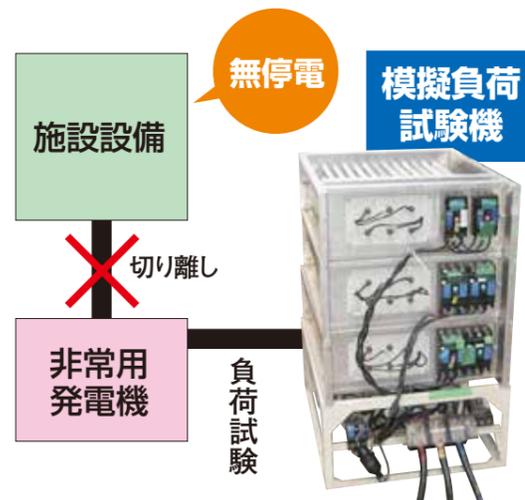
## 実負荷試験と模擬負荷試験について

実負荷運転では、まず、施設を停電させて非常用発電機の自動起動を発生させ、電力を発電させなければなりません。その影響として、営業・操業を中止して行わなければならないので、その分、利益が損失してしまいます。

それに比べ、模擬負荷試験は非常用発電システムから切り離し、専用の模擬負荷試験機で発電機に負荷をかけられるので、施設の停電が不要となり、通常通りの業務遂行が可能です。

その他にも模擬負荷試験は、100%負荷試験の実行や詳細な想定試験も行えるメリットがあります。

実負荷試験	模擬負荷試験
防災用設備を実際に稼働させ発電機へ負荷を与える試験方法。 法定の30%の負荷が与えられない場合がある。	発電機の最大能力を満たす模擬負荷試験機を用意し、負荷を与える試験方法。 30%はもちろん、100%の負荷試験も可能。



## 100%負荷試験をお薦めする理由

消防法では、年1回、「非常用発電機の定格出力30%以上の負荷で、必要な時間連続運転を行うこと」が義務づけられています。

しかし、30%負荷では、非常時に確実な非常用電力の供給が確認することができない場合があります。それにより、実際の非常時に人命の危機、財産の損失を招く恐れがあります。

過去、東日本大震災では、非常用発電機の異常が発生し、震災被害を大きくさせた原因の一つとなりました。

そこで、100%負荷試験を行うことにより、負荷追従試験や初動電力想定試験など、より正確な試験を実施でき、予めの対処などが可能になります。

また、高負荷の長時間連続運転(ヒートラン)により、故障や火災の発生原因となる、蓄積されたカーボンを高温消失させるクリーンナップが行え、発電機の長寿命化にもつながり、発電機のトータルコスト削減を可能にします。

**100%負荷**

- 詳細な負荷試験
- カーボン除去